

令和6年12月25日

第40回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第40回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時：令和6年12月16日（月）

場 所：オリエンタルホテル広島

2. 「県民文化奨励賞」受賞者

書道パフォーマンスカーター大会実行委員会（地域文化活動） 三次市

三次太鼓育成会（地域文化活動） 三次市

3. 受賞者の紹介

書道パフォーマンスカーター大会実行委員会（地域文化活動）

書道パフォーマンスカーター大会実行委員会は、平成23年7月、「書道パフォーマンス」という新しい文化を通して「地域を元気にしたい」という思いから、甲奴町観光協会が中心となって実行委員会を設立し、日本の伝統文化としての「書」を通じて、“出会い”や人と人の“つながり”の場所をつくりながら、未来を担う若者の多彩な才能の発掘と地域活性化の融合を図っている。

「書道パフォーマンスカーター大会実行委員会」の名称については、ジミー・カーター米国元大統領との縁から甲奴町に平和学習、文化活動やまちづくり拠点の施設として「ジミー・カーターシビックセンター」が平成6年に建設され、ここを毎年の開催会場としていることから、“カーター”の名を取り入れている。

今日に至るまでの延べ出場団体数は、主に広島県内の中学・高校92校、大学21校、一般2団体、延べ人数は1,379人。出場する学生たちは、書道に取り組むことで技法を鍛え、集中力、分析力を磨き、パフォーマンスではテーマに沿ってそれぞれが書に想いをのせながら、自己表現の芸術として「想いを伝える」ことを魅力の一つとしている。

過去の出場者には、世界10ヵ国以上で書道パフォーマンスを披露した書道家、青柳美扇氏など、多くの書道指導者を輩出している。

三次太鼓育成会（地域文化活動）

三次太鼓育成会は、昭和47年、大水害に見舞われた三次市では、中国縦貫自動車道の開通もあって、市民を元気づけよう、町おこしをしようという機運が高まり、皆に親しまれ、山間地域の魅力を発揮できるイベント「三次きんさい祭」が昭和51年に始まり、祭の目的である「新しい文化の創造」の中核として三次太鼓育成会を設立された。

和太鼓演奏家で昭和40年に山梨県甲府市の指定無形文化財として指定された天野流太鼓宗家、家元である天野宣氏の教えに従って、三次の風情と人情を緩急あるリズムに織り込み、音楽として打ち続けている。打つことによって人間の生きる様を勉強し、社会や地域の文化に寄与できることを目標としている。

設立以降、国際交流としてはハワイ公演や台湾公演などを行い、受賞としては昭和62年に広島文化賞、平成19年には広島県地域文化功労者賞と三次市芸術文化賞を受賞するなど数々の功績を残しながら、平成20年に通算公演1,000回を達成し、今年9月現在で1,246回と精力的に活動されている。

まもなく50周年を迎えるが、和太鼓以外にも練り込み囃子「三次どんちゃん」普及活動にも貢献、地元の小中学校への指導も行い、学校教育の場でも地域の伝統文化に対する関心が高まる大きな力となっている。